

教えて!わたしたちの町のお医者さん

ピロリ菌について考える

「ピロリ菌」は、今まで胃がんや胃潰瘍などの病気がなければ胃からの除菌が、公的保険の対象ではなかったが今年2月下旬より、慢性胃炎でも保険適用が認められことになった。このことで胃がん等の胃疾患が劇的に減るのではないかと期待がかかる。

今回は、前橋市にある家崎医院 家崎院長に「ピロリ菌」についてうかがった。



家崎 桂吾(いえさき けいご) 院長

Profile

1976年 群馬県立前橋高校卒業
 1982年 東京慈恵会医科大学卒業、卒業後2年間東京慈恵会医科大学附属病院で内科研修医として勤務
 1984年 群馬大学医学部第一内科入局大 学病院及び関連病院勤務
 1996年 群馬大学医学部大学院卒業、医学博士号取得
 1997年から2年間 カナダ、オンタリオ州 マクマスター大学医学部客員講師として留学し、消化器病学の研究に従事帰国
 1999年 群馬大学附属病院勤務
 2000年 公立碓氷病院勤務
 2003年6月より2010年9月まで済生会前橋病院消化器内科部長として勤務
 2010年10月家崎医院内科・胃腸内科開院【認定医】
 日本消化器内視鏡学会 専門医
 日本消化管学会 胃腸科認定医
 日本ヘリコバクター学会 ピロリ菌感染症認定医

■そもそも「ピロリ菌」とはどんな細菌なのか教えてください。

「ピロリ菌」とはオーストラリアでウオレンとマーシャルという2人の医師によって発見されました。

今まで、胃の中は強い酸性のため細菌は生息できないという説が有力になっていきましたが、胃炎を起こしている患者の胃の粘膜に菌がいることを発見しました。この菌の発見で2005年2人はノーベル生理学・医学賞を受賞しました。

現在、日本人は中高年齢者の半数以上の方が「ピロリ菌」に感染しているといわれています。多くの場合は乳幼児期の人から人への経口感染が原因と考えられます。また、昔の井戸水などの衛生環境がよくなかったことも深く関係していると思われる。

■この「ピロリ菌」は胃に対してどんな影響があるのですか？

「ピロリ菌」がいるだけなら、症状が出ることはありません。症状が出るのは

「ピロリ菌」が原因で何らかの病気が発症したときです。「ピロリ菌」が引き起こすおもな病気は胃潰瘍や十二指腸潰瘍などです。また最近では慢性胃炎を引き起こし胃がんの発生に大きく関わっていることが明らかになっています。

この「ピロリ菌」がいなくなることで、それぞれの疾患が治り、胃がんの発生リスクが減少することが期待されます。

■「ピロリ菌」の予防や治療する方法があったら教えてください。

多くの場合は乳幼児期に感染してしまつたため、有効な予防策は考えられませんが、乳幼児に対しては、親からの口移しなどを避けることが大切です。

今年の2月下旬より胃がんの予防を目的に内視鏡検査で慢性胃炎が確認できれば、「ピロリ菌」の除菌治療が保険適用となりました。1週間2種類の抗生物質と胃薬を服用して、その後しばらくしてから除菌できたか判定します。薬の服用に関しては抗生剤により腸内環境が崩れ下痢等を引き起こすこともありませんが、薬と一緒に乳酸菌製剤と一緒に摂ることで改善できるので、副作用を恐れることなく、胃がん予防のためにも早期に「ピロリ菌」除菌治療を受けることをお勧めします。



取材協力

家崎 医院 いえさき 地域の皆様のよき相談相手になることを目指します。
 内科・胃腸内科 (内視鏡)

診療科目 内科一般・胃腸内科・各種検診
 診療時間 9:00~12:30 / 15:30~18:30 ※土曜日は17:00まで
 ※初診の方は、終了30分前までにお越しください。
 休診日 水曜日、日・祝日 H P http://www.iesaki.com/

家崎医院 内科・胃腸内科
 ●内科 ●胃腸内科(内視鏡) 苦痛の少ない内視鏡検査



前橋市南町2-10-10 TEL.027-221-7888